



町人の願いと行方

第一地区の十王堂の変遷

令和 7 年 9 月 1 日現在
世帯数 : 908 世帯
人口 : 1572 人
男 : 744 人
女 : 828 人

松本市博物館で開催されていた特別展「地獄の入り口―十王のいるところ―」この題だけ見ると恐ろしいのですが、この十王の方々を見てみると恐ろしい王から慈悲のある王までいることが分かります。また、松本城周辺以外にも、十王を祀っているところが、松本市内に十一ヶ所（可能性の有るものが他に二ヶ所）あり材質、所有者も様々見受けられます。



餌差町十王堂の諸仏（放光庵所蔵）

インドを起源とする閻魔王が、インドから仏典と共に中国へ伝わり、中国の冥界観などと融合し十王が誕生したとされ、その後日本へ伝わってきています。仏教となえる閻魔王とは、王のみが地獄の裁判官だと思っていたのですが、十王が地獄を司ること、そしてそこから救ってくれる存在でもあるとのことですが、ただし現世についての行いに

よっては地獄に落とすなど、時に厳しくそして時にやさしく人々を見守る、そのような存在だそうです。

団塊世代が小さい頃聞いていた閻魔様は大きな力を持ち、ほかの王を支配する存在だと思っていました。そのこ

とで子どもたちを怖がらせて、悪い行いを戒めさせていたと思われます。昭和二十九年に地獄について描かれた洞光寺の額には、人間のすべき行いについて二枚にわたり現代語で書かれていて、まるで道徳の教本を見ているようです。

城下町を守るためとして建てられた十王堂は、江戸時代松本城を中心として、東西南北に四ヶ所あったそうです。よく見てみると、北と東は武家、南と西は町人の居住地となっていました。しかし千七百年代に南の十王堂は十輪院西の十王堂は地蔵堂へと変わり、夫々聖観音坐像、福德出世地蔵が祀られるようになったと言われています。この違いは何だろうと考えると、これに関しては、史

が、これに関しては、史実（資料、古文書）等が無く現在不明という状況です。武士に比べ町人は支配される立場であり、町の守り神として人々を守ってくれるよう願って前記のような変化をもたらし、十王でも慈悲のある観音、地蔵となったのでは、と想像してしまいます。

現在、南の聖観音坐像は「お観音さま」と親しみをこめて呼ばれ、毎年八月十七日に例祭を行っています。また南からの火災の延焼が近くで止まった、との言い伝えから火防観音と言われ、火災よけのお守りとして、御札が作られて信仰されています。この聖観音坐像は、栄橋交差点北の T 字路を東に入った先の左側にありますので、ぜひ一度お立ち寄りいただき、歴史を肌で感じてみてください。

さて、この変化は我々第一地区古来の出来事ですので、資料等が見つかれば歴史的なことが明らかになるのではと考えています。しかし数十年にわたる区画整理の結果、土蔵他古い建物を解体整理した時に、大切な資料も共に片づけられてしまった可能性もあります。

このような歴史浪漫が解明できるよう、住民の皆様及びお寺関係者のご協力を願います。

Presented by
視聴覚委員会

まちかどフォト
～第一地区の夏～



第一地区
夏のボウリング大会
結果発表！

7月26日開催



順位	お名前	スコア (2ゲーム ハンデ込み)
1 位	高島 直人さん (伊勢町 2)	276
2 位	永井 昭さん (博労町)	269
3 位	真島 富男さん (新伊勢町)	250

松本市 「都市力」全国8位



「日本国政図絵」で知られる矢野恒太記念会による「データで見る県勢」を基に、「長野県8大都市の都会度ランキング・長野、松本、上田、佐久、塩尻、諏訪、伊那、飯田を徹底比較」というネット番組があった。「各街の特徴」

「総計データによる比較」「その他の指標による比較」という各項目を点数化して、長野市527、松本市502、上田市379、飯田市302、佐久市295、塩尻市260、諏訪市234、伊那市211という順位を付けていた。制作者の主観がだいぶ影響している感じが、我が県の主要都市の概要がある程度分かるものと言える。トップの長野市が、人口、経済力、県庁、新幹線、善光寺などの強みがあるのに対し、松本市は、空港、日銀、大学本部や、松本城、上高地、セイジ・オザワフェスティバル、才能教育等により、長野市とほぼ同等にカウ

ントされていた。また、松本駅を起点に中町・なわてと松本城とを結んだ三角地帯が県

下の繁華街と評価されていた。令和5年の松本市のホームページに、「日本の都市特性評価2023（一般財団法人森記念財団都市戦略研究所）において、松本市が並みいる政令指定都市の間に入り、過去最高の第8位にランクされた」との掲載があった。日本の各都道府県の主要都市を対象として、定量・定性データを基に、都市の強みや魅力といった都市特性を明らかにするために行われる調査で、対象は136都市。都市の力を構成する要素として6分野（経済・ビジネス、研究・開発、文化・交流、生活・居住、環境、交通・アクセス）を設定し、種々の指標によって都市力を測定している。（なお、東京都は対象から外されて、23区の比較データが別に測定されている）

各指標を見ると、

▼経済・ビジネス トップ3が大阪、福岡、名古屋で、松本は29位（長野県1位、2位は長野市で32位）

▼研究・開発 トップ3が名古屋、京都、つくばで、松本市は76位（長野県2位、1位は長野市で61位）

▼文化・交流 トップ3が京都、横浜、大阪で、松本は15位（長野県1位、2位は長野市で21位）

▼生活・居住 1位が松本（長野県2位は長野市12位）、2位出雲、3位福岡と続く。

▼環境 トップ3が豊橋、横須賀、出雲で、4位が松本（長野県1位、2位は長野市で27位）

▼交通・アクセス トップ3が大阪、名古屋、福岡、松本は72位（長野県1位、2位は長野市で75位）

▼総合 トップ3が大阪、横浜、名古屋で、松本が8位（長野県1位、2位は長野市で17位）、となっている。

「生活・居住」「環境」「文化・交流」の分野での高評価、「研究・開発」分野での遅れなどが注目される。

この森記念財団都市戦略研究所は「森ビル」が主催する都市研究のエキスパートで、国内外の都市計画の基本データを提供する機関として信頼が厚い。我が松本の街づくりの参考になるかもしれない。（なお、2024年の調査では松本市の都市力は12位であった）

様々な劇的な変化をきちんと受け止め、真剣になすべきことを考えねばと思う。遅まきの調査では松本ながら、50年後の人々のために「ちりつも」で節水に努める毎日だ。

順位	都市名	スコア
1	大阪市	1,237.2
2	横浜市	1,152.1
3	名古屋市	1,138.3
4	福岡市	1,138.1
5	京都市	1,129.3
6	神戸市	1,010.8
7	仙台市	976.8
8	松本市	949.0
9	金沢市	948.1
10	札幌市	929.4

上位10都市の合計スコア
[出展：一般財団法人 森記念財団 都市戦略研究所
日本の都市特性評価 2023]

電車通り

先日、天気の良い長期予報なるものを見ていたら、9月も猛暑が続く、10月に入っても30度を超える気温の日があるだろうということだった。

私が子どものころは、神道祭りになると、そろそろ炬燵を出そうかというような気候だったのに、半世紀余りでこんなことになるとは、想像だにできなかった。

昨年、いつもリンゴを送ってくれる飯田の友人が、もううちの果樹園では、よいリンゴは採れないかもしれないと言っていた。飯田はリンゴ栽培の南限だという。すでに、南限がもっと北の地域に変わっているのかもしれない。心配なのは気温だけではなく、降水量の少なさも気になる。川や湖の水位が下がっているように感じているのは私だけではないはずだ。

様々な劇的な変化をきちんと受け止め、真剣になすべきことを考えねばと思う。遅まきの調査では松本ながら、50年後の人々のために「ちりつも」で節水に努める毎日だ。